

「ちょっとした会話」を大切にしたケア

～千賀看護師（船山内科）への取材～

糖尿病看護に携わってからの年数と、関わったきっかけを教えてください。

糖尿病看護歴は13年です。院長が専門医で糖尿病患者さんが多いことがきっかけでした。それまでの糖尿病看護に触れたことは殆どありませんでした。

仕事の内容についておしえてください。

診察の介助から療養指導の全般です。医師と受付、栄養士、看護師で連携して糖尿病患者さんのケアにあたっています。



心に残る患者さんとのエピソードはありますか？

通院中断を繰り返していた方の「医院に繋がってほしい」「自分に気がついて欲しい」という気持ちを受けとめて、毎回立ち話程度の会話を重ねることで中断の間隔が短くなるということがありました。



教育効果を実感することはありますか？

インスリンの手技が理解できない方に“指導”という時間を特別に組むのではなく、来院時にこちらから声をかけるなど、些細なことの積み重ねで治療効果に繋がることを日々実感しています。大げさなことではなく、毎日のちょっとした会話を大切にしています。

他にも、患者さんの方から血糖自己測定の記録ノートを差し出してきて「看護師さん、この数字はどう？」と聞かれる時は「関わって良かったな…」と思います。

苦慮していること、困っていることはありますか？

高齢者で通院が困難になって在宅での治療が必要になったり、重症化してしまって他の病院にお任せしてしまうことが辛いです。

あと、糖尿以外の方も多く診察に見えるので「もう少し、あと5分お話できたらいいな」ということもあります。そんな時は、最初にどの位の時間が割けるか聞いて、急がなくても良いことは後日にして、今日お話しなければいけないことを優先順位を考えてお話しすることにしていきます。ある程度計画性を持って、その方に合わせていく必要がありますね。

地域のネットワークづくりはどうしていますか？

江東区では、医師が熱心に勉強会を行っています。勉強会で会う方も多いので、今後は他の病院やクリニックがどのように対応しているか現場の話を聞く機会が欲しいと思います。

患者さんとの関係を築くうえで、心がけていることはありますか？

患者さんが自己血糖測定やインスリンの質問をしてくださった時に「わからないことを教えてくださいありがとうございます」と言うようにしています。患者さんが申し訳なく思っている気持ちを払拭できるようにして、気持ち良く帰っていただきたいです。

今後の活動予定は？

スタッフの教育スキルを身につけたいですね。それから患者さんに継続して通っていただけるような関わりをみつけていきたいです。これからも糖尿病看護を語ったり、学んだりしながら、皆さんと一緒に悩んでいきたいです。研修会などでお会いする機会がありましたら宜しくお願いします。



取材：雨宮・和田